



伊豆急行線の起点、伊東駅がある伊東の街を、伊東公園の展望台から望む。伊東の歴史は平安以前に遡り、江戸時代には風待ちの港とされた。明治以降、温泉地として有名になった。

静岡県 伊豆急行 伊豆急行線

文・渋谷申博
text by Nobuhiro SHIBUYA



連載 第14回

民営鉄道の 起源を訪ねて

鉄路は何を目指したか

国鉄の計画を引き継ぎ
奥伊豆に鉄路を延ばす

房総半島・伊豆半島・紀伊半島は、いずれも太平洋に突き出した半島で形も似ている。しかし、伊豆半島には1点大きな違いがある。

房総半島・紀伊半島には海岸べりをぐるっとめぐる鉄道があるのに対し、伊豆半島は東海岸にしか鉄道がないのだ。

実は伊豆半島にも半島周遊ルートの鉄道が計画されていた。大正11(1922)年公布の『鉄道敷設法』には、今後敷設すべき路線の一つに「静岡県熱海ヨリ下田、崎ヲ経テ大仁ニ至ル鉄道」とある。

この計画に基づき大正15年に半島東部の熱海〜伊東間の敷設が認可された。翌年の昭和2(1927)年には、半島南部の下田までの延長が決定されたが、「世の経済事情」から伊東〜下田間は凍結されてしまった。昭和13年には熱海〜伊東間、すなわち国鉄伊東線が開通したが、伊東以南の路線は凍結されたまま戦後を迎えることになった。

筆者が取材で伊豆を訪れたのは1月下旬の平日であった。熱海駅からまっ赤な車体が印象的なリゾート21シンメ電車に乗って伊豆急下田駅に向かった。快晴で暖かい日であったが、気候のせいか車窓から見える伊豆七島は霞んでいた。

車窓から、山が海に迫っている様子も見て取れた。この山々が国鉄の延伸が進まなかった理由の一つだった。伊豆は江戸など

了仙寺



下田港近くに建つ日蓮宗の寺院。下田奉行が寛永12(1635)年に創建したという。日米和親条約の付録(下田条約)の交渉場所とされた。この時ペリーは、軍楽隊、大砲4門、水兵300人を引き連れて了仙寺に現れたという。

今井浜海岸駅



白砂が美しい今井浜海水浴場の最寄り駅。伊豆急行線開業の翌年(1962年)から、夏期のみ臨時停車駅が設けられた。正式の駅となったのは昭和44(1969)年。現在の駅は平成18(2006)年にリニューアルされたもの。

ペリー艦隊来航記念碑



日米和親条約に函館とともに開港することが決まった下田に、ペリー艦隊7隻が来航したのは、嘉永7(1854)年のことであった。

寝姿山自然公園



仰向けに寝た女性に見えることから寝姿山という。幕末に外国船の見張りに使った番屋が再現されており、頂上近くには五島慶太顕彰碑がある。

伊豆急行線路線図



下田ロープウェイ



伊豆急下田駅の駅前から寝姿山山頂を結ぶ。伊豆急行線よりひと月早い昭和36(1961)年11月1日に開業した。

伊豆急下田駅



伊豆急行線の終着駅。駅名に「伊豆急」がついているのは、東北本線(現・青い森鉄道)や近鉄の下田駅と区別するため。下田には御用邸もあるので、天皇陛下が乗車されるお召し列車も発着することがある。

伊豆急行株式会社

IZUKYU CORPORATION

開業 1961年(昭和36年)12月10日

伊豆急行線 伊東～伊豆急下田(45.7km)

<https://www.izukyu.co.jp/index.php>

に向かう船の寄港地として最適な場所、下田など港町は発展していた。しかし、山が多いためそれらをつなぐ陸路が不便で、海路の方が便利ともいわれた。

こうした状況の打破に乗り出したのが、五島慶太が率いる東京急行電鉄(のちの東急電鉄)であった。同社は昭和31(1956)年に凍結されていた伊東～下田間の鉄道敷設を申請した。3年後、敷設の免許が交付され、これに合わせて伊豆急行の前身である伊東下田電気鉄道が設立された。

工事の認可に際しては、昭和36年12月23日を竣工期限とする条件がつけられた。熱海～伊東の工事でさえ4年かかったというのに、それより難所であつた距離が長い工事を2年でやれというのだ。

しかし、伊東下田電気鉄道は全線を10区画に分け、それぞれに建設業者を振り分けることで建設期間の短縮を図り、みごとに期限を守って開通させたのだ。

残念なことに、伊豆に鉄道を敷くことを強く願っていた五島慶太は開通前の昭和34年に死去していたため、昭和36年12月10日の開業祝賀列車は彼の遺影を乗せて走った。祝賀列車を待ち受ける伊豆急下田駅には、俳優の石原裕次郎がヘリコプターで駆けつけたという。

伊豆急下田駅に到着した筆者は、まず下田ロープウェイで寝姿山へと登った。ここは幕末に下田港に入ってくる外国船を見張った場所でもある。さらに登ると五島慶太顕彰碑が町を見守るように立っていた。

しぶやのぶひろ

1960年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究家。『参拝したくなる!日本の神様と神社の教科書』(ナツメ社)、『聖地鉄道めぐり』『全国名所図会めぐり』(以上G.B.)、『猫の日本史』(出版芸術社)ほか著書多数。